

本研究の限界と課題

本研究では脳血管障害患者の機能回復過程を病巣との関係で解明できなか
いかと考え、対象者の CT 所見を病巣部位ごとに分類し、回復過程との関
連を明らかにしようと試みたが、病巣が多様で、回復過程との関連を明ら
かにすることはできなかった。この点が本研究の限界である。

本研究では脳血管障害患者が「いつまでに」「どこまで」回復するのか
を予測する予後予測モデルが作成された。これにより RES-3 では提供さ
れていない長期回復群の予測値と適切な回復期間設定の根拠が提供され
た。しかし長期回復群の 6 ヶ月後の予測値が実用性を持つためには入院 3
ヶ月まで待たねばならなかった。RES-3 も同様だが、入院時に長期の予測
は困難で、この点の克服が今後の課題である。

本研究では先行研究にならない、対象者の選択において脳血管障害初発者
に限定し、再発者を除外した。脳血管障害患者の機能回復過程を類型化す
る上においては必要な選択であったと考えられるが、実際には高齢脳血管
障害患者の再発率は高く、再発者を対象とした機能回復過程の類型化が今
後の課題である。